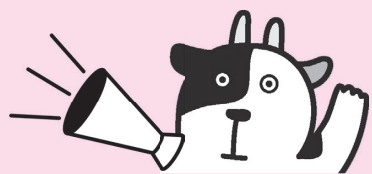


「フェイクニュースに だまされないために」

鏡石二小6年 羽賀 ゆい

みなさんは、七月五日をどのように過ごしましたか。私は、その日に大災害が起きるという予言を知り、不安で本当にそうならどうしようという気持ちでいました。「七月五日、日本大災害発生!？」という情報は、またたく間に拡散されました。そして、学校中、日本国中、さらには外国にも拡散されました。この情報による影響は凄まじく、その予言以外のデマが流されたり、六月〜八月の



第27回

少年の主張 鏡石町大会

8月1日(金)、町健康福祉センター多目的室で第27回少年の主張鏡石町大会が開かれ、小学生8人、中学生3人が出場し、小学生の部は羽賀ゆいさん(鏡石二小6年)、中学生の部は綱藤優菜さん(鏡石中3年)が最優秀賞を受賞しました。また、品川陽加さん(鏡石一小6年)、折笠琴音さん(鏡石中1年)が優秀賞を受賞しました。中学校の部に出場した3人の作品は、9月25日(木)に喜多方市で開催される県大会に推薦されます。最優秀賞の2人の作品を紹介します。

台湾から日本への飛行機の便が中止になったりしました。結局、その日になっても大災害は起きませんでした。私は、「だまされたあ。」という気持ちと「本当にならなくて、よかった。本当になつていたら大変だったなあ。」という気持ちになりました。社会への影響も大きかったと思います。私はこの体験を通して、フェイクニュースについて知り、拡散・投稿しないことやだまされないように確認することを提案したいと思います。

例年、フェイクニュースにだまされた人や信じた人がそれをさらに拡散したり、ふざけて投稿したりすることが増えています。私もフェイクニュースについて、テレビで観たり、YouTubeやInstagram等でフェイクニュースが、流れていたりして実際に私も、信じてしまったことがあります。その時に本当の情報か確認すればよかったと思いました。確認方法を調べてみると、四つの方法がありました。一つ目は、情報源があるかを確認しま



す。その情報は、どこから、いつ発信されたものなのか、信用できる根拠となるものは今も残っているのかを調べます。また、情報源が「海外」のニュースや論文の場合も同じように確認をします。二つ目は、その分野の専門家の確認です。例えば、一般人ユーザーや自称〇〇〇〇専門家、単なるコメントーターの場合、その人が過去に、ニセ・誤情報を発信して批判されていたり、その人が関連する情報や商品売っている可能性があります。そもそも、その専門家でもないし、責任をもって発信していない場合、フェイクニュースの可能性が高いので、あまり信じなくてもいいと思います。三つ目は、他ではどのように言われているかを知ることです。その情報について、他の人や

「変わった自分」
鏡石中3年 綱藤 優菜
「優菜、変わったよね。今の優菜の方が良いと思うよ。」
友達のこのひと言が、どれだけうれしかったか。そう言ってくれた友達は気づいていないと思います。

「迷惑だったかな」「どう思われたかな」私はいつも、友達と話した後にこう思っていました。小学生の頃から、いつも「相手に嫌われない答え」を考えながら話していた私。嫌われることが怖かったから。自分が嫌だと思っても引き受けてしまったり、「いいよ。」と答えてしまったり。自分の気持ちとは関係なしに答えていることが多くあり、正直自分が嫌で嫌で仕方ありませんでした。しかし、それで友達が笑っているのなら、うれしいと思ってくれているのなら、悪いことをしている訳ではないし、このままでいいかと自分をごまかしていました。こんな考え方をしていたせいか、私の心はどんどん弱くなっていきまし



た。それが分かっているけど、嫌われることが怖い、話してもらえないのは寂しいと自分を変えることができませんでした。自分の気持ちを相手に伝えることをしなかったら、自分が変わろうとしなかったら、変わるはずがないのに。

中学生になって、私はバレーボール部に入りました。新入部員は、私を含めて五人。人数が少なかったのもあり、私たちはすぐに打ち解けました。しかし、私は変われない。仲良くなって、友達の存在が大きくなり尚更、嫌われることが怖く、ずっと私は逃げていました。私以外の四人は、かなり打ち解けてとても楽しそうでした。それでも私は遠慮して、みんなのノリについていくことができず、楽しそうみなながうらやまし

メディアはどのように言っているのか、誤りである可能性がないのか、反論しているものの有無などを確認します。もし、多くの人が信じていても、専門家や必要な資格をもっている人は、どう考えるのかも確認してみてもよいと思います。四つ目は、使われている画像が本当かを確認することです。例えば、ネットで火事が起きていると投稿されていた場合、その画像と火事が同じ火事のものをいつているのかを確かめる必要があります。もしかしら、その画像は映画の撮影の火災シーンだったり、過去の写真、AI生成の写真だったりする可能性があります。その画像を検索してみると全く同じ画像が出てきた時には、疑ってもいいと思います。情報を確認した時に誤情報だとわかった場合は、それを拡散しないことも大切だと思います。拡散するスピードは、真実や事実よりも六倍速いという調査結果があります。うその情報なのに、あつという間に広がってしまうことは、こわいことだと思います。

い、こう思っていました。もちろん、楽しくなかった訳ではありません。遠慮なしに話している四人がうらやましかった、それだけです。

三年生になつてもまだ私は、友達の名前を呼び捨てできずにいました。呼ばなければいけなかったわけではありません。呼び捨てしてみたいと思つたのは、今まで無視し続けてきた私の本当の気持ちです。今までは「馴れ馴れしい」と思われることが嫌で、呼び捨てしたことはありませんでした。しかし、自分の本当の気持ちに気づいてしまった私は、勇気を出して呼んでみようと思つたのです。心臓の音が聞こえるくらい緊張しました。

呼んでみたら、みんながうれしそうな顔で私を見てくれました。その顔を見て、私もうれしくなり、それから少しずつ、同じ部活のみんなを呼び捨てで呼べるようになっていきました。

この出来事をきっかけに、私は遠慮せずに友達と話せるようになりました。さらに、部活動を通して、心身ともに

私は、いろいろな情報を目にした時にその情報が本当なのかを確認しようと思います。そして、本当の情報を信じ、友達や家族にシェアしたいと思います。今でも予言や誤情報が流れ続けています。みなさんもこの事実を知り、社会が混乱したり、だまされたりする誤情報に振り回されず、拡散を助長してしまうことがないようにすることで、誤情報が流れなくなり、安心した社会になるのではないのでしょうか。私たちも社会の一人として、まずは、小さな行動を起こしましょう。



第27回少年の主張鏡石町大会に出場した皆さん

強くならつていくのを感じました。失敗したら「ごめんささい。」と言っていた私が、今では「ごめん、次は取る。」「カバリーしてくれてありがとう。」「と前向きな言葉や感謝の言葉を伝えられるようになりました。

「『ごめん』よりも『ありがとう』って言われた方がうれしいな。」

伝えてみようと思つたのは、先輩の言葉がきっかけでした。私はそれから普段の生活でも「ありがとう。」と伝えるようにしています。「気持ちの表し方にも種類がある」と私は学んだのです。

中学生になって、多くの人に会えたからこそ、私は変わることができました。おかげで私は、今とても充実した日々を送ることができています。友達と話しているときが一番幸せ。自分の気持ちを伝えなければ何も変わらない、何よりも楽しくない、そう気づかれました。

だから、私は「変わったよね。」そう言ってもらえたことがたまらなくうれしかったです。